

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の取組目標と方策

① 学習指導

- ア 各教科で共通理解を図り、新学習指導要領の円滑な実施を図る。
- イ 教科会で3年間の指導計画・内容の周知・徹底を図り組織的な教科指導を行う。
- ウ 定期考査等の分析により基礎・基本の定着状況を随時把握する。
- エ 応用力を育成するために発展的な内容の学習へ取り組む。
- オ 全教科でアクティブラーニングを推進する。
- カ 全教科において、教師が「問い」を発することを意識し、探究活動を推進する。
- キ 理数研究校として理数教育の充実を図る。
- ク 表現力・記述力を向上させるために言語能力の育成に組織的に取り組む。
- ケ 習熟度別授業を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。
- コ 探究活動として高校1・2・3年生で「総合的な探究の時間」の授業を実施する。
- サ オンライン英会話を活用し、4技能の中でも特に「聞く・話す」の能力の向上を図る。
- シ チャイムに始まり、チャイムに終わる授業を実施する。
- ス 学校評価アンケートの分析結果や管理職による授業観察での助言等を参考として授業力向上のための課題解決を図る。
- セ 教員相互の授業見学や指導教諭の授業への参観を行う。
- ソ 自習室の活用を推進する。

学習指導上の課題となっていた歴史科目について、本校の生徒の実態及び志望校を踏まえ、令和9年度入学生からの教育課程を今年度中に改訂した。3年間を見通した指導計画・内容の充実・徹底を図り、定期的実施している模擬試験の結果を活用した。模擬試験の結果を校内で共有するために、分析会を定期的開催し、本校生徒の強みと弱みを各教科で分析・共有し、授業改善に繋げた。今年度実施の共通テストにおいて生徒の得点状況を把握し、日頃の授業の振り返りを行っている。本校の大学入試結果において、伸び悩みが課題となっている科目については、教科内で年間指導計画の再検証を行い、次年度へ向けて新たな改善を進めている。補習の実施や校内予備校の活用も含めて、対策を講じた。

発展的な内容の学習については、各教科の課題量が課題となっている。学校評価アンケートにおいても課題量の多さが指摘されている。各教科から指示される課題については、学年教科担当を中心に整理するなど、引き続き取り組む。

学習環境の整備として、自習室の活用は臨時的に自習室の拡大を図るなどし、ニーズが高い傾向が続いている。通塾率30%という数字からも、本校での学習に期待を寄せている実態があるため、引き続き校内予備校、竹早塾(外部人材を活用した学習支援)とともに学習環境の整備を進めていく。

学習形態としてアクティブラーニング・ペアワークは本校の特徴の一つとなっており、学習スタイルとして各教科ともに定着している。苦手意識をもつ生徒もいるが、授業内で教育的な効果を実感できるよう、取組と生徒への言葉かけを丁寧に行っていきたい。

GE-NET EE の指定に付随するオンライン英会話は1年生で実施し、教員及び生徒ともにニーズが高いことがわかった。引き続き効果を検証していく。

理数研究校の取組としては、東京科学大・お茶の水女子大・東京国立科学博物館・JAXA・都立駒込病院等の外部機関・講師の協力のもと、多様な活動を提供することができた。科学実験体験・講演も含めると、多様な学びの機会を提供できた。生徒には大変人気のイベントとなっており、生徒の理数系ニーズに応える事業の継続を検討している。また、本校の学びの特徴の一つとしても定着化・充実化させたい。

② 進路指導

- ア 高等学校3年間を見通した進路計画の改善・充実を図る。

- イ 大学受験結果の分析とそれに基づく指導体制の充実を図る。
- ウ 進路検討会、模擬試験のデータの分析に基づき、全ての教員の指導を充実させる。
- エ 進路・探究部が中心となり長期休業中の講習を組織的に実施する。
- オ 保護者を交えた三者面談を随時実施する。
- カ 電子調査書への対応として、学年と連携して生徒のキャリアパスポートの活用を推進する。

進路検討会、模試分析会のデータに基づき、授業改善及び進路指導に活用した。特に3年生生徒のケース会議においては、進路指導に携わる教員が情報を共有し、生徒の個に応じた出願対策案を検討した。今年度の大学入試結果についてさらに分析を重ね、次年度以降の進路指導資料として蓄積を進めていく。

長期休業中の講習については、教員が実施する講習を踏まえ、系統的・横断的に内容を設定した。特に、受講希望の生徒の傾向を掴み、校内予備校と連携を図ったことは効果的な指導に繋がった。

これらの進路指導の下、担任による三者面談を適宜行い、進路指導の充実を図った。

③探究活動

- ア 【TIPS-Type3】Tokyo-IBL ハイスクールとして、進路・探究部を中心に教科、学年と連携した3年間を見通した系統的な指導を学校全体で周知し、全ての教員が探究活動を推進する。
- イ 高校1・2・3年生の「総合的な探究の時間」において理数研究校としてデータサイエンスや統計処理の内容を充実させる。
- ウ すべての教科・特別活動で探究活動を推進するために、各教科で指導計画を整える。
- エ 全校生徒が個人端末を利用して、積極的にネットワークや各種ソフトウェアを活用する。

2年生全員が制作する論文については、校内全教員で添削指導を行うとともに、1・2年生全員による成果報告会(プレゼンテーション)を実施することができた。今年度把握した探究学習における課題について精査し、来年度の校内体制の整備に繋げていく。具体的には分掌を改編し、進路・探究部から進路部・探究部として探究部を独立させるとともに、1年生の探究学習の年間指導計画を改編し、さらにパワーアップした探究学習に繋げていく。

この取組には本校卒業生を含む TA(論文指導アシスタント)を活用し、指導の充実を図った。TA と教員が同質で生徒への論文指導に対応できるよう、指導力の充実も今後の課題となっている。

②生活指導

- ア 生徒相互や生徒と教員間の「挨拶」を励行するとともに、学校生活のすべてにおいて「時間を守る」態度を身に付けさせ、社会生活の基礎と互いに尊重する心を養う。
- イ 交通ルールの遵守と自転車通学マナーを向上させるとともに、自転車通学におけるヘルメット着用を推進する。
- ウ スクールカウンセラー、養護教諭、担任の連携を強化し、いじめの早期発見を図るとともに、事案発生時は学校いじめ対策委員会を中心にいじめ防止と対策について検討する。

「時間を守る・挨拶をする」といった指導は、今後の社会生活を円滑にするために必要な、最低限のマナーであることを伝えながら、個別かつ丁寧な指導を行った。家庭との連携を含め、引き続き、丁寧な指導を行っていく。

自転車の指導については、通学用に自転車を利用する者は少ないものの、日常生活では便利に活用する交通手段である。このことを踏まえ、富坂警察署から自転車利用に関する講演の協力を得た。道路交通法の改正については、生徒に直接かかわる内容として、具体的な指導を行うことができた。

いじめの早期発見を図るため、普段からの見守りや小さな変化を逃さないための面談の実施に取組んだ。また、教員対象にいじめ重大事態にかかわる研修を行うとともに、学校いじめ対策委員会を定期的開催し、いじめにかかわる日頃からの備えに努めた。

③特別活動・部活動

- ア 多くの体験活動を通して、生徒の自信を高めさせ、協力することの大切さや日々の努力の積み重ねの大

- 切ぎ等に気付かせ、困難にめげない力を高める等、活動を通して、人間的な力を高めさせていく。
- イ 総合的な子供の基礎体力向上施策に基づく体力向上を図る。

体育祭・文化祭・合唱コンクールをはじめ、各部活動については、生徒の「自主自律」の精神を育むことを念頭に置きつつ、著作権などの社会通念上、身に付けておかねばならないモラル・マナー・ルールを指導し、健全育成をめざした。

基礎体力の向上については、本校生徒の課題の一つである。体育の授業はもとより、部活動・学年における活動についても、目標達成のための取組を行った。

④ 国際理解教育・国際交流の推進

- ア 国内語学研修、海外語学研修を通して国際理解教育と国際交流を推進する。
- イ 海外語学研修においては十分な調査と安全対策の確立、生徒・保護者への丁寧な説明、業者との連携を綿密にとることで円滑に実施する。
- ウ 海外帰国生徒受入校として異文化理解と多様性理解の推進を図る。
- エ 東京都教育委員会が主催する海外派遣研修に積極的に参加する。

TGGでの国内語学研修、イギリスでのUKサマーキャンプ(海外語学研修)を実施することができた。特にUKサマーキャンプについては、参加希望者が例年、定員枠を大幅に超え、生徒及び保護者のニーズが高い。学校評価アンケートでは、「このような海外研修の機会をもっと増やしてほしい」という意見が多数寄せられている。本校としては、海外帰国生受入校としての使命を果たすうえでも、国際理解教育・国際交流の推進は、より一層推進すべき事業と捉えている。東京都による派遣事業には積極的に参加を希望するとともに、東京都の要請に応え視察・海外生徒受入等について、できる限り対応していく。

⑤ 健康づくり

- ア 校内美化を推進し、コンディションレポート等を活用することで健康的で安全な学習環境づくりに努める。
- イ 防災教育について防災教育推進委員会が中心となり、関係機関と連携を図りながら組織的・計画的に実施する。
- ウ スクールカウンセラーを活用し、高校1年生全員への面談を行い、精神的な課題のある生徒の早期発見に努めるとともにカウンセリング機能を充実させる。

コンディションレポートおよびスクールカウンセラー等の活用によって、生徒の健康状態を把握し、必要な手立てに繋がるように支援することができた。今年度よりスクールカウンセラーが2名配置になったことにより、生徒の突発的な面談に対応しやすくなった。

本校生徒の防災意識は比較的高い傾向がある。学校評価アンケートでは、防災意識を高める必要あり、との生徒の声があがった。小石川消防署、文京区防災管理課との連携を図りながら、防災教育の充実に努めていく。

⑥ 学校2020レガシーの推進

- ア 「日本の食文化」に対する理解を深める取組を推進する。

生徒の食に対する意識と実態を踏まえ、日本の食文化に対する意識の醸成をはかるために、来年度和食の専門家を招聘し、日本の食文化と課題、伝統文化の学習機会を設けることとした。

⑦ 特別な支援が必要な生徒への適切な支援体制

- ア 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を適切に実施する。

イ 必要に応じて「通級による指導」制度を活用する。

上記法律に関する理解を深め、適切な合理的配慮について検討を重ねることができた。特別な支援が必要な生徒への支援体制については、引き続きコーディネーターを中心として、都立水元小合学園、特別支援教育心理士巡回事業、精神科医による指導を活用しながら、適切な対応を検討する。

⑧ 自殺対策に資する教育の推進

ア 東京都教育委員会作成資料「SOS の出し方に関する教育を推進していくための指導資料」を参考に生徒理解に努め、未然防止に努める。

上記指導資料を活用するとともに、コンディションレポートの活用や日常的な教員からの言葉がけを行いながら、生徒理解を深め、未然防止に努めていく。精神科医による生徒対象の講演会は、生徒の実態に即した内容で行われ、生徒の感想にも肯定的な意見が寄せられていた。引き続き、生徒の見守りを組織的に行っていく。

⑨ 校内環境の整備

ア 施設の安全管理を徹底する。

イ 施設の老朽化に伴う不具合には経営企画室と連携して迅速に対応する。

ウ 自習室等学習環境の整備を推進する。

日々の施設目視点検を続け、危険箇所や老朽化による不具合は、経営企画室と連携し、迅速に対応する。今年度はインターロッキングの修繕、トイレの不具合箇所の修繕を行うことができた。

自習室の環境整備については、進路部と必要物品の調達、開室時間等を調整し、生徒のニーズに応えた。

⑩ ライフ・ワーク・バランスの推進

ア 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、学校の業務改善を推進する。

イ テレワークの活用と計画的な仕事の進め方により、業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

ウ 日々挨拶とコミュニケーションを積極的にとることにより、明るい職場風土づくりを推進する。

エ 管理職は、毎月、長時間労働者への超過時間の通知と産業医面接の実施により、教職員の組織管理や時間管理、健康安全管理を行う。

長時間労働の是正と教職員の健康管理のために、長時間労働の実態がある教職員に対して面接を行った。産業医からの助言を得て、教職員に適切なフィードバックを行うとともに、校務の整理等に努めた。また、小さなことでも相談しやすい環境を整えとともに、管理職自ら教職員に話しかけることを通して、体調の把握と職場環境の把握に努めるなどした。また、課題を見取った際には組織的な業務改善を図った。

⑪ 経営企画室と一体となった学校経営の推進

ア 経営企画室と教員組織が円滑に連携を図り、施設管理は予算執行管理を適正に行う。

イ 施設・設備の点検と維持管理を強化し、安全管理と事故防止に努める。

ウ 経営企画室は都民サービスの視点に立った窓口業務、広報活動を推進する。

教育目標を実現するための具体的な教育活動については、適切な予算の執行を通して活動実施に繋がるよう調整を行った。破損箇所や修繕が必要な場合は、速やかに経営企画室とともに対応し、自己の未然防止に努めた。

⑫ その他

ア 年間を通じたサービス事故防止研修会を実施、個人情報管理、サービス管理、危機管理の徹底を図る。

定例で行う悉皆のサービス防止研修会の実施はもとより、時期によって起こりやすいサービス事故(個人情報の紛失等)の例を話題にするなどし、日頃からの危機管理意識を醸成した。

(2) 重点目標と方策

① 学習指導・教科指導力の向上

ア アクティブラーニング、探究型学習などの指導力向上に向けて教科主任を中心として検討し、3年間を見通した教科指導計画と内容について教科の全教員の共通理解を図る。

イ 校外の研修や指導教諭の授業を参観することで「チーム竹早」としての組織的な教科指導力の向上を図る。

ウ 新学習指導要領の趣旨を踏まえて各教科で授業力の向上を図る。

各自授業改善を図るとともに、教科主任を中心として授業改善に向けた具体的な方策を教科会等で検討した。若手を中心とした教員が、学校外の研修や指導教諭による模範授業等の見学に赴き、本人の研修を充実させるとともに、科内で共有し改善につながるように試みた。

② 3年間を見通した組織的な進路指導の実施

ア 3年間を見通した組織的な進学指導の実施を適切かつ確実に遂行することで第一希望の進路実現を支援する。

進路・探究部が行う模試分析会の情報をもとに、教科内で3年間を見通した進学指導の充実が図れるよう体制を整えた。人材育成に有効な大学入試問題分析を科内で行い、授業改善に繋げた。研究授業においては、大学入試問題を踏まえた授業を行う教員も増えてきている。

③ 3年間を見通した組織的な探究活動の実施

ア 本校の特色である探究活動について全教員が協力して推進を図る。

イ 「総合的な探究の時間」及び全教科で探究活動を推進し、新学習指導要領と大学入学共通テストへの対応を推進する。

全教員が2年生の論文指導を担った。一方で、全教員が同質の指導には至っていないという現状を踏まえ、来年度には指導体制の充実と指導内容の整理を行い、組織的な取組となるよう準備を進めている。

④ ICT機器の環境整備とICT機器を活用した授業、オンラインでの授業対応を推進する。

オンライン学習デー等を通して、オンラインでの授業対応の実践を1年間にわたって試行し、成果と課題を見取ることができた。ICT機器については、より一層の環境整備が必要である。

2 数値目標

(1) 学習指導	目標値	令和7年度
生徒の授業満足度	85%	95%
夏季講習	70講座(1~3年)	76講座(1~3年)
夏季講習申込人数	1,000名	2,017名
定例教科会	12回/年	12回/年
教員相互授業見学	3回/年	3回/年
(2) 生活指導		
部活動 都ベスト64以上	3部	1部

部活動入部人数	非加入率 5%以下	0%(加入率 125%)
行事満足度	80%	94%
(3) 進路指導		
国公立大学現役合格	85名(うち難関大学10名)	56名(うち難関8名)
難関私立大現役合格	90名	86名
大学入学共通テスト各科目平均点	70%	70.8%
模擬分析会	2回(1,2年) 3回(3年)	1年3回、2年4回、3年6回
(4) 広報活動		
ホームページ更新	400回	510回
応募倍率	1.8倍	1.69倍